



TITLE:

初冬の暁天

AUTHOR(S):

水野, 千里

---

CITATION:

水野, 千里. 初冬の暁天. 天界 1921, 2(14): 15-16

ISSUE DATE:

1921-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/159649>

RIGHT:

## 初冬の曉天

水野千里

本篇は平松翁がものされた天體一夜話の續篇として筆を採つた目下星の西洋名と支那名とを比較研究中だがよき参考書を得られないので手許にある二、三のものによつた蕪文を草したのである。

## 一、東空に五大遊星

京都天文臺の中村要氏から昨今水星が一等星位で金星の東にあつて樂に見えるとの御通知を頂いたので去三月末に京都で見たが岡山では未だ替て見たことがないから大正十年十一月十九日午前五時三十分起床東窓を開くと丁度オリオン座の三ツ星の様に乙女座に土火木の三星が一列にならびオリオン座のそれよりは一層美觀を呈しスピカを中にし金星は天秤座にあつて燦然たる光輝を放ちてその北東に一等星これぞ水星である。一時望遠鏡で見ると一部分が虧けて居るので遊星たることが明らかであつた。かく五度程の間に木火土金水の五大遊星を見ることが出来るのは實に千載の一遇で宵には天王星、小遊星ヴェスタを見、曉には是等の遊星を見ることを得て大

喜び、これに蟹座にある海王星を加へたならば地球以外の七大遊星が眼前に瞬くではないか。

## 二、銀河附近の星

澄み渡つた空を一瞥したのに北西の地平線に將に沈まんとして居るのは王良五星(カシオペア座) 附路(同座) 策(同座) 閣道六星(同座) で天船九星(ペルセウス座) 大陵八星(同座) 卷舌六星(同座) はこれに續行し、五車五星(駁者座) 漸く視界に入り、畢宿八星(牡牛座) 中の第五星即ちアルデバランはその光特に著しく參宿七星(オリオン座) は西山に入らんとして、(同座) 厠四星(兎座) はその光薄く、これに反して天狼(シリウス) は目醒るやうで、軍市五星(大犬座) はその光を失はんとし、弧矢九星(同座) は其の光度二等星から五等星迄いろ／＼で、壽老人(カス) は最早南西の地平線下に没して見えない。南河三星(小犬座) 中の第三星と天狼と參宿第四星(ベテルギウス) とは略正三角形の位置にあつて其の光輝を競ひ偉觀を呈して居ます

その北に井宿八星(雙子座 $\mu, \nu, \gamma, \lambda$ )天璣二星(同座 $57, 58$ )五諸侯五星(同座 $\theta, \epsilon$ )北河三星(同座 $\rho, \alpha, \beta$ )があらつて賑々しく、前記の諸星は何れも銀河附近にあります。

### 三、天頂の南北附近の星

鬼宿四星(蟹座 $\theta, \gamma, \delta$ )は積尸(レシオス座 $\beta$ )を取圍み天頂に近く、柳宿八星(海蛇座同座 $\delta, \rho, \epsilon, \zeta, \omega, \theta, \eta$ )は稍々鮮明にその東に星宿七星(同座 $\alpha, \beta, \gamma, \delta, \epsilon, \zeta, \eta$ )之れに續き、その南側にある天狗七星(帆座 $e, d$ 、羅針盤座 $b, a, \gamma, \delta$ 、外一星 $f, c, \lambda, \epsilon, \mu, \kappa, \delta, \eta, \alpha, \phi, \beta, i$ )は鮮明でない。北側の軒轅十七星(大熊座一星、山猫座 $\alpha$ 外三星、獅子座 $\gamma, \delta, \epsilon, \zeta, \eta, \alpha, \phi, \beta, i$ )中の第十四星はレグラスで黃道にある唯一の一等星で有名なものである。西下相(同座 $\delta$ )西次相(同座 $\theta$ )西上將(同座 $\sigma$ )五帝座五星(第三星 $\delta$ )は何れも獅子座の諸星で、大熊座の北斗七星(天樞、天璇、天璣、天權、玉衡、開陽、搖光)上台二星( $\kappa, \iota$ )中台二星( $\mu, \lambda$ )下台二星( $\epsilon, \delta$ )大專( $\psi$ )太陽( $\tau$ )は尙ほ北に位し、北極附近には勾陳六星(小熊座 $\alpha, \beta, \gamma, \delta, \epsilon, \zeta$ 、天皇大帝 $\delta$ 、カフエウス座 $\gamma$ )外一星( $\pi$ )帝星(小熊座 $\beta$ )太子(同座 $\delta$ )龍座中の上輔( $\lambda$ )少尉( $\kappa$ )右樞( $\alpha$ )左樞( $\iota$ )上宰( $\eta$ )少宰( $\eta$ )上弼( $\kappa$ )上衛( $\tau$ )天厨六星( $\rho, \theta, \pi$ )天棓五星( $\delta, \epsilon, \zeta, \eta, \beta$ )があります。獵

犬座 $\alpha$ は常陳第一星で $\beta$ は第四星外四星と大熊座の一星とを合せて常陳は七星、髮座 $\alpha$ は東上將、 $\beta$ は周鼎(三星)第一星でありますが著しくはない。

### 四、東天の星

乙女座の黃道附近に土火木の三遊星が明皎々として同座の $\beta$ (右執 $\eta$ 、左執 $\gamma$ 、東上 $\delta$ 、東次 $\epsilon$ 、東次 $\epsilon$ )角宿二星( $\alpha, \beta$ )平道二星( $\mu, \nu$ )亢宿四星( $\kappa, \iota, \lambda, \epsilon$ )等、光とり、で、その南に翼宿二十二星(コップ座 $\alpha, \delta, \epsilon, \zeta, \eta, \theta, \iota, \kappa, \lambda, \mu, \nu, \omega, \phi, \chi, \psi, \gamma, \beta$ )海蛇座 $b, \gamma, \delta, \epsilon, \zeta, \eta, \alpha, \phi, \beta, i$ は見にくけれど、軫宿四星(鳥座 $\gamma, \delta, \epsilon, \zeta$ )右轄(同座 $\alpha$ )左轄(同座 $\eta$ )長沙(同座 $\tau$ )は鮮明であります。金星が我が物顔に水星を伴ひ輝いて居るのは天秤座で、式宿といふのはこの座の $\alpha, \iota, \gamma, \beta$ 四星であつて牧夫座の $\alpha$ (アーク $\tau$ )は所謂大角で光輝特に著しく赤色を帶び、その兩側には右攝提三星(同座 $\eta$ )と左攝提三星( $\delta, \pi$ )北には梗河三星( $\rho, \sigma$ )尙ほ其北に招搖( $\delta$ )輝き七公七星中牧夫座に屬するものは第五星 $\nu$ 、第六星 $\mu$ 、第七星 $\delta$ であつて何時見ても美しいのは貫索九星(北冠 $\pi, \theta, \beta, \alpha, \phi$ )であります。最大速力では等の星を一見する中に次第に日出に近づきだん／＼と星は見えなくなつて、地上には霜華白うして雪の如く今夜も屹度晴れてアンドロメダ座の流星群がよくみえるであらうと楽しんで晝の勤務に就いた。